

- 国内外とのオンライン交流
- 探究学習での情報収集・分析
- 動画、インターネット教材の活用

教室

ICTとは
Information and
Communication
Technology
(情報通信技術)の略

ICT活用をあたりまえに

- 通学できない場合のオンライン学習
- 保護者から学校への連絡のデジタル化
- 一人一人に対応した自宅学習

自宅

- 児童生徒の学習記録活用、指導改善
- 職員会議のペーパーレス化
- テスト採点の自動化

職員室

ICTを活用した学びは、児童生徒同士の協働的な学習や、学校外の人々との交流にも役立てられています。

ある学校の国語の授業では、防災をテーマにした複数の評論文を比較して読み、パソコンで意見を共同編集しながら整理し、グループで理解を深める取組が行われています。理科の実験では、グループごとに異なる条件で行った実験の結果を、オンラインで共有して比較することで、実験にかかる時間を短縮し、考察の時間を増やすことが可能となっています。また、調査学習では、専門家などの話をオンラインで聞くことで、教室では得られない知識や体験に触れることができます。

みんなで創る学び

体の動かし方のポイントや改善点をパソコンで確認
(県立粉河高等学校での体育の授業)



例えば、グループ学習中に先生が対応できない場合でも、児童生徒自身がパソコンで調べて理解を深めるなど、一人一人が主体的に学ぶことが可能となっています。また体育の授業では、自分の動きを撮影してパソコンで見直し、課題や改善点に気づく学習を行う学校もあります。他にも、通学が難しい児童生徒には、必要に応じてオンラインで先生が指導したり、課題をやりとりする機会を設けています。

さらに令和8年度から県立高校では、自分に合った端末を使えるように、個人端末の持ち込みか貸与端末を選べる制度も始まります。

自分に合った学び

県内の公立学校に、児童生徒がパソコンやタブレットなどの端末を一人一台利用できる環境を整備しています。これにより、資料の作成や児童生徒同士での情報共有・意見交換などが容易に行えるようになり、学習の幅が広がっています。

進化する学び

ICT活用について生徒に聞きました



県立箕島高等学校
濱井 柊音さん 江川 こころさん

学校では多くの授業でパソコンを使っていて、国語、英語、歴史などの教科で活用しています。英語の課題では、自分が話した発音を録音し、その音声データを先生に送って採点してもらうなどしています。パソコンを使用して学校外の専門家の話を聞くこともあり、探究学習の授業でSDGs(持続可能な開発目標)について調べた際には、外国の国際機関で働いている方の話を聞いたりする機会もありました。他にも、パソコンを使用すると国語などの作文で、文章を修正する際にも消したり書き直したりが簡単で便利だと感じています。また、授業でパソコンを使用することで、タイピングや表計算ソフトの使い方にも自然と慣れることができ、社会や仕事でも役立つスキルとして身につけていくと感じています。

オンラインでの国際交流の様子
(県立橋本高等学校での探究の授業)



ICT教育で「未来を切り拓く力」を育む

県政最前線

県では、デジタル化やグローバル化、価値観の多様化など急速に変化する社会の中で、こどもたちが将来直面するさまざまな課題に主体的に向き合い、自ら考え、未来を切り拓く力を育む教育をめざしています。

その一環として、ICTを活用し、こどもたちが興味や理解に応じて学びを深め、思考力や判断力を育む学びを「あたりまえ」にしていきます。また、先生たちが授業づくりやこどもたちの指導に集中できるよう、ICTによる業務の効率化にも取り組んでいます。

この特集では、県が進めるICT活用の取組と、変化する学校現場の様子を紹介します。

けんきょういくちようきょういくせいさくか
問 県教育庁教育政策課 ☎073-441-3648 FAX073-432-4517